



# ひかりいっぱい新聞

人生100年時代「アイフレイル」に負けないように

院長 木村友剛

眼の中にコンタクトレンズ?! ICL治療

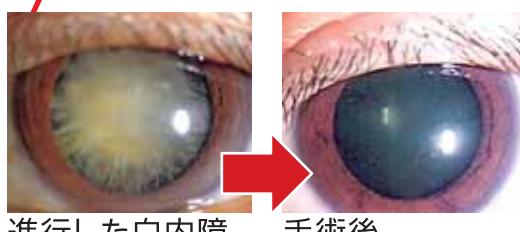
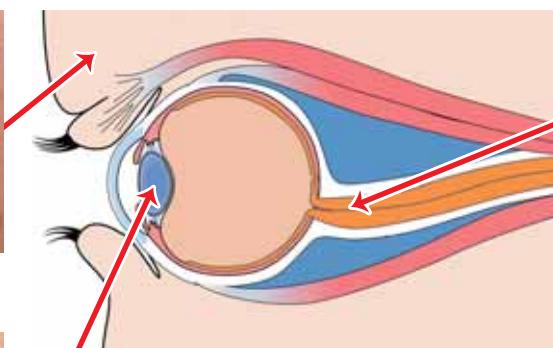
検査課副課長 土山勝也

加齢黄斑変性の治療に新しい薬剤が増えました

病棟医長 武田哲郎

アイフレイル自己チェックをしてみましょう!

## 加齢による眼の変化



手術後

手術後

## 人生100年時代 「アイフレイル」に負けないように

院長 木村 友剛

新年明けましておめでとうございます。

さて、「アイフレイル」という言葉をご存知でしょうか?「フレイル」は、加齢に様々な要因が加わって心身の機能が衰えていき、健常から要介護へ移行する中間の段階のことを言います。「アイフレイル」は「目のフレイル」という意味で、加齢による眼の衰えのことです。初期では、なんとなくかすんで見える、進行していくと、ひどく見えにくい、となっていきます。そして「アイフレイル」は、他の「フレイル」を進行させ、認知症の悪化や、転倒しやすい、などの原因になります。

日々の生活をいつまでも健康に過ごしていくためには、よく見える、ということは大事です。見えにくくなると、徐々に外へ出かけることがおっくうになったり、好きな仕事や趣味ができにくくなったりします。

現在の医学では、いったん悪くなってしまうと回復が難しい病気が多く、早期発見、早期治療が重要です。当院では、患者さん一人ひとりが自分らしい生活を送り、生涯にわたって見える生活を送ることができるように、できる限りの治療、サポートをいたします。「フレイル」に負けないように、一緒に頑張っていきましょう。

今年も何卒よろしくお願ひいたします。



# 眼の中にコンタクトレンズ?! ICL治療

## ～角膜を削らない眼内コンタクトレンズによる近視治療～

検査課副課長 土山 勝也

眼内コンタクトレンズは、英語のインプランタブルコンタクトレンズを略してICL(アイシーエル)とも呼ばれます。この眼内コンタクトレンズを虹彩と水晶体の間に挿入して近視・乱視を矯正し裸眼視力を回復させる新しい視力矯正手術がICL治療です。

### 手術方法



### ICL治療の特徴

#### 手術適応

- 手術の適応範囲が広く、角膜をレーザーで削るLASIK手術では適応外となっていた強度近視の方や角膜が薄い方にも手術可能。

LASIKが出来ない…

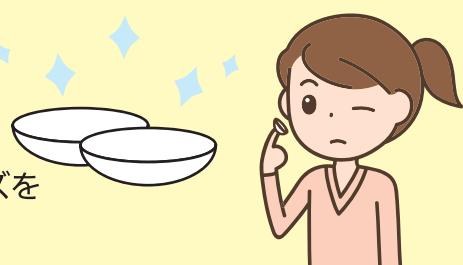


#### 術後の見え方

- 角膜を削らないので術後の見え方が鮮明でクリア。
- 角膜を削ることで起こりうる術後の合併症(光のぎらつき、ドライアイなど)の発生がない。
- 術後の回復した視力が長期的に安定。

#### レンズ

- コンタクトレンズのような交換やお手入れが不要。
- 見え方に不満だったり、将来眼の病気になった際などは、レンズを交換したり、取り出すことで術前の状態に戻すことが可能。



ICL治療は安全で有効性の高い視力矯正が期待されます。メガネ、コンタクトレンズで不自由を感じておられる方、過去にLASIKは不適応と診断された方、ご興味のある方はぜひご相談ください。眼の状態、職業などに合った治療法をご提案いたします。

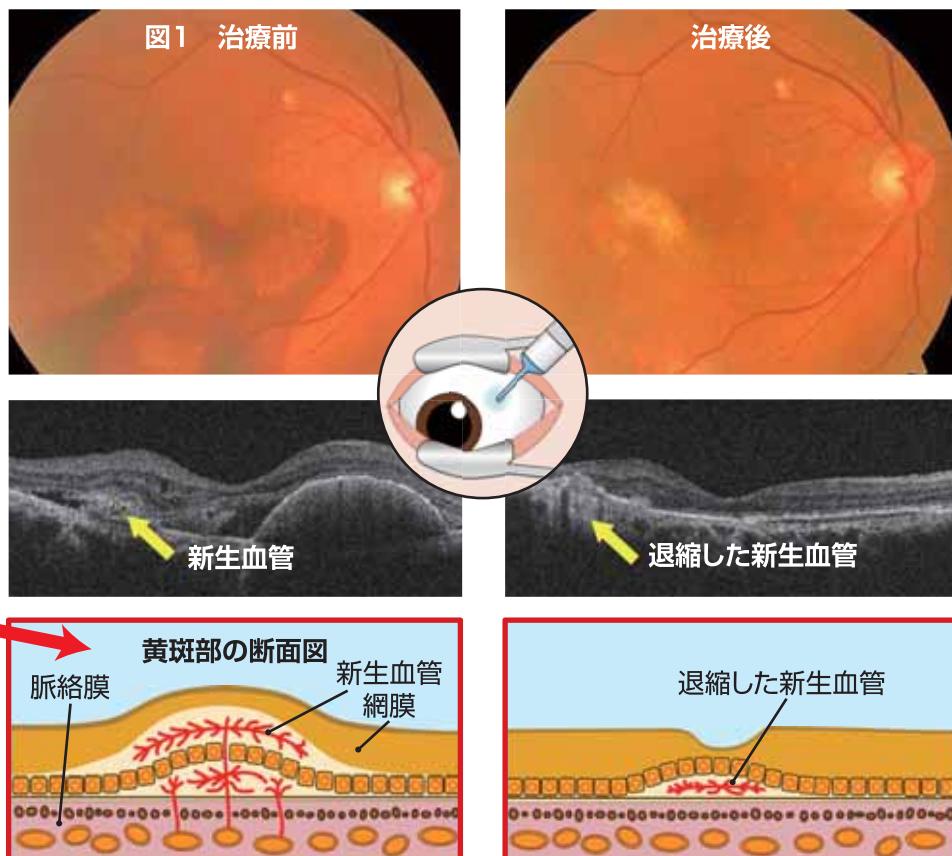
# 加齢黄斑変性の治療に新しい薬剤が増えました

病棟医長 武田 哲郎

加齢黄斑変性には、脈絡膜新生血管を伴う「滲出型」と、「萎縮型」の2種類があります。

治療対象となるのは「滲出型」で、脈絡膜新生血管が網膜下に侵入して、網膜を障害します。主な症状として視力低下、ゆがみなどがあります。

滲出型における脈絡膜新生血管の発生、伸展には血管内皮増殖因子(vascular endothelial growth factor: VEGF)が深く関わっており、その病態を抑える抗VEGF薬療法が治療の主流となっています(図1)。



## 抗VEGF薬治療薬の種類

2008年にペガブタニブ(現在発売中止)、その後ラニビズマブ、アフリベルセプトが登場し、難治疾患であった加齢黄斑変性に対して初めて視力改善が期待できる治療法となりました。2020年に久しぶりにプロルシズマブが加わって新たな治療選択として期待されています。また昨年12月にはバイオシミラー※となるラニビズマブも認可され、経済的な問題で投与、継続できなかった患者様にも新たな選択となります。

抗VEGF薬				
一般名	ラニビズマブ	アフリベルセプト	プロルシズマブ	ラニビズマブ
製品名	ルセンティス	アイリーア	ペオビュ	ラニビズマブBS
発売日	2009年	2012年	2020年	2021年
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>発売からの期間が長く、治療経験が多い</li><li>全身へ移行が少ない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>最も使用頻度が高い</li><li>あらゆる病型に使用できるバランスの良い薬剤</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>治療効果、効果持続期間が長い</li><li>副作用の報告がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>バイオシミラー※で薬剤が安い</li><li>治療経験が少ない</li></ul>

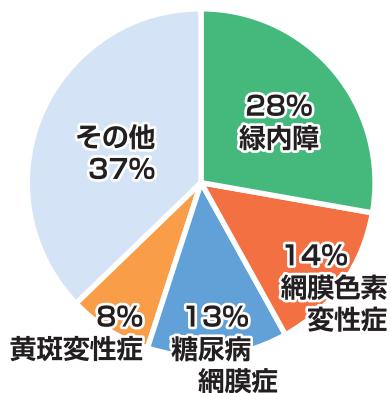
※バイオシミラー(バイオ後続品)とは、先行バイオ医薬品の特許が切れた後に他の製薬企業から発売されるバイオ医薬品の後発薬です。様々な試験の結果、先行バイオ医薬品と品質、効き目や安全性が「同等」(同一製品ではない)であることが検証された医薬品になります。

滲出型加齢黄斑変性には病型や新生血管のタイプに違いがあり、様々なケースがあるため抗VEGF薬を使用しても滲出性変化が消失せず、再発を繰り返し悪化する患者様もいらっしゃいます。その場合は薬剤の投与間隔を短くしたり、薬剤の切り替えや、他の治療法の併用(光線力学療法や光凝固、手術)を検討していきます。

加齢黄斑変性治療は慢性疾患のため、治療を継続していくことが大切です。今回ご紹介した抗VEGF薬で、より長く患者様の視機能を維持できれば幸いです。

# アイフレイル自己チェックをしてみましょう!

## 中高年失明原因疾患



※厚生労働省 2017年度研究報告書

見えにくさや目の不具合を「歳のせい」と片付けず、眼科で相談をしてみましょう。今では研究が進み、新しい薬や治療方法も出てきました。早期発見、早期治療で病気の進行を遅らせることができます。

また、生活習慣病(糖尿病・脂質異常症・高血圧など)と眼の病気は大きく関連しています。予防のためにも、食事や運動、休養、喫煙、飲酒など生活習慣を見直してみましょう。

「フレイル」とは、衰弱を意味する「frailty」に基づく言葉で、年を重ねるとさまざまな部位で機能の低下が見られるようになります。代表的なものは、「感覚機能」「認知機能」「運動機能」の低下で、これらは密接に関わり合っており、例えば感覚器である視力の低下が記憶や理解、学習などの認知機能に影響を及ぼす可能性が指摘されています。一方、視力の改善は、認知症予防につながると期待できるほか、QOL(生活の質)の改善につながります。

中高年失明原因疾患の第1位は緑内障ですが、日本緑内障学会が行った大規模な疫学調査では40歳以上の日本人の20人に1人が緑内障で、年齢とともに増加し70歳以上では10人に1人、また約9割の緑内障患者が未発見のまま放置されていることが明らかとなりました。

## 生活習慣を見直そう!



喫煙

暴飲暴食

運動不足

## アイフレイル自己チェック

2つ以上当てはまった人はアイフレイルかもしれません。見る力が低下すると、人生の楽しみや快適な日常生活が制限されて健康寿命にも影響します。人生100年時代、生きている間は見える喜びや楽しさを失いたくないものです。



- 目が疲れやすくなった
- 新聞や本を長時間見ることが少なくなった
- まぶしく感じやすい
- まばたきしないとはっきり見えないことがある
- 段差や階段で危ないと感じたことがある

- 夕方になると見にくくなることがある
- 食事の時にテーブルを汚すことがある
- 眼鏡をかけてもよく見えないと感じることが多くなった
- まっすぐの線が波打って見えることがある
- 信号や道路標識を見落としたことがある



医療法人社団ひかり会

**木村眼科内科病院**

〒737-0029 広島県呉市宝町3-15

TEL : 0823-22-5544 [代表]

0823-21-1000 [病棟専用・夜間・休日]

FAX: 0823-25-9010

<http://www.kimura-eye.or.jp/>



医療法人社団ひかり会

**焼山木村眼科**

〒737-0935 広島県呉市焼山中央1丁目10-9

TEL : 0823-33-8259

FAX: 0823-33-8279

木村眼科

検索 できます。